

V. 現地視察

1. 現地視察概要・報告

(1) 現地視察概要

- ① 日 程：2012年2月19(日)～20(月)1泊2日
- ② 場 所：東日本大震災(2011年3月11日発生)の被害地域(宮城県)
気仙沼市→南三陸町→女川町→仙台市
- ③ 参加者：7名(国内参加者1名、海外参加者3名、GRIPS2名、BRI1名)

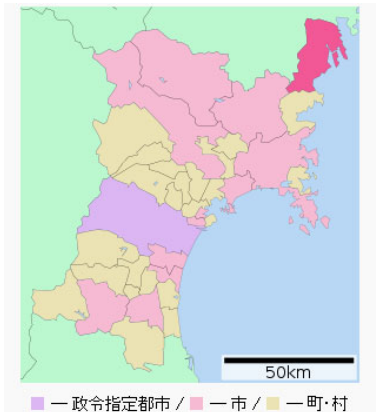
氏名	所属
池田恵子	静岡大学教育学部 教授
王振耀 ワン・ツェンヤオ	中国・北京師範大学 壹基金公益研究院 院長
Ghazala Naeem ガザラ・ナイーム	パキスタン・建築家、災害リスク管理者
Jerry Velasquez ジェリー・ヴェラスケス	タイ・国際防災戦略アジア太平洋事務所 上級地域コーディネーター
森田高市	建築研究所
岡崎健二	政策研究大学院大学 教授
李愛林	アシスタント

④スケジュール

時間	行動内容
2月19日(日)	気仙沼市～南三陸町
10:46 発	上野駅 (やまびこ57号盛岡行:2時間33分)
13:13 着	一ノ関駅
移動	(マイクロバス:約70分)
14:30～15:00	気仙沼市周辺視察(車内)
移動	(マイクロバス:約60分)
16:00～17:00	南三陸町観光協会説明会
移動	(マイクロバス:約10分)
18:00～	宿舎:南三陸町ホテル観洋
2月20日(月)	南三陸町～仙台市
9:00～10:00	南三陸町観光協会 現地視察
移動	(マイクロバス:約80分)
11:20～12:00	女川町周辺視察(車内) (女川町役場、女川町地域医療センター)
移動	(マイクロバス:約30分)
12:30～13:40	石巻市周辺視察(車内) (門脇小学校、石巻高校、日和山公園、石巻市役所)
移動	(マイクロバス:約80分)
15:00～16:30	東北地方整備局 説明会
移動	(マイクロバス)
16:53 発	仙台駅 (Max やまびこ150号東京行:2時間5分)
18:58 着	上野駅

(2) 現地視察報告

1) 気仙沼市



宮城県北東端の太平洋沿岸に位置する都市。2011年(平成23年)3月11日、マグニチュード9.0の東日本大震災が発生後、気仙沼市赤岩で震度6弱、本吉町および笹が陣で震度5強を記録した。大津波とそれによって流出した石油の引火による広域火災も発生し、被害は甚大。国土地理院の調査の結果、岩手県・宮城県・福島県の広範な沿岸地域において、この地殻変動による著しい地盤沈下があったことが明らかとなった。

調査団は、被災した現地(火災による被災も含む)や、津波で流されて陸地の奥まで流されてきた漁船などを視察した。水産業が盛んだった漁市場も津波や地震で大きい影響を受けていた。

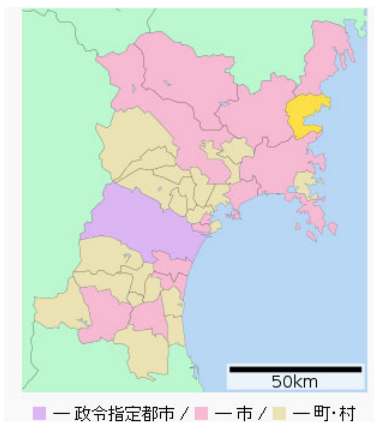


← 全焼した建物

津波で陸路まで流されてきた漁船 →



2) 南三陸町



宮城県の北東部、本吉郡の南部に位置し、志津川湾、伊里前湾に面する町。

志津川湾では、ギンザケ、カキ、ホタテガイ、ホヤ、ワカメなどの海面養殖業が盛んに行われ、近年では、農漁業体験を含む滞在・体験型の観光にも力を入れていた。

東日本大震災が発生し、南三陸町は震度6弱(観測地点:歌津地区、志津川地区)を記録した。さらにこの地震が引き起こした大津波は町内の3つの川を逆流し、1960年のチリ地震による津波の到達地点を越えて内陸を襲った。この地殻変動により、志津川地区の地盤は大きくずれた。

①南三陸町観光協会説明会:

地域観光ガイド(震災前)として働いていた鴻巣氏(現在、震災の語り部)から、協会内で展示されていた南三陸の震災前と震災後の写真を説明を受けた。会議室に移動し、観光地としての南三陸町や震災による被害、災害後の対応、災害後の鴻巣氏の体験等のプレゼンテーションがあり、その後活発な質疑応答があった。

↓南三陸観光協会のビル



↓協会内部に展示されている大震災前後の写真



↓担当ガイドによるプレゼンテーション



②南三陸町観光協会の案内による現地視察:

- 公立志津川病院

南三陸町立志津川病院も、5階建てビルの4階（高さ15-16m）までが津波に呑み込まれて医療機器、ベッド、カルテなどが損壊あるいは流失し、看護婦ら病院スタッフ4人・入院患者67人が死亡あるいは行方不明となった。向かい側の建物に多くの住民がいたが、責任者の機転で外に逃げるのではなく、建物内にとどまったため、多くの人が救われた。

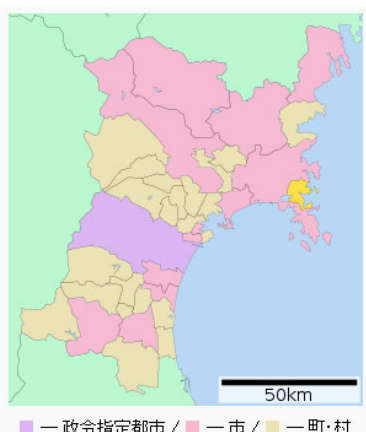


- 防災対策庁舎：天使の声

南三陸町防災対策庁舎の遠藤未希さんは、津波警報を無線で最後まで呼びかけていた。鉄筋三階建の建物は鉄骨だけ残して、津波に破壊された。30名が屋上に逃げたが、その内町長を含む8名が助かったという。「命をかけた防災無線」のニュースを最後まで呼びかけた彼女の声は、「天使の声」と呼ばれている。また、遠藤さんが流された後、彼女の後を受け、最後まで防災無線マイクを握りしめていたのは、南三陸町危機管理課課長補佐の三浦さんだった。



3) 女川町



宮城県にあり、太平洋沿岸に位置する町。日本有数の漁港である女川漁港があるほか、女川原子力発電所が立地、東北地方に電力をもたらしている。

東日本大震災の際、女川町の女川原子力発電所の震度計が震度6弱を観測した（町内の検測所は津波で流失）。さらにこの地震が引き起こした津波に襲われ、沿岸部は壊滅的被害を負った。港湾空港技術研究所の調査によれば、津波の最大波高は女川漁港の消防庁舎で海拔14.8mを記録した。

鉄筋コンクリート製のビル6棟が基礎部分ごと地面から抜けて横倒しになる被害も発生した。液状化現象で基礎が浮き上がった所を津波になぎ倒された。世界的にも例の無い被害である事から、町では被害資料として保存する方針を固めている。調査団は、高台にある女川町地域医療センターから被害を受けた女川町全体を見た後、転倒した建物や後背地の高校敷地内に建設された仮設住宅を視察した。

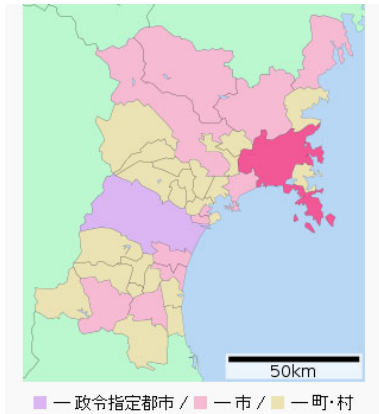


← 津波より転倒された建物

仮設住宅→



4) 石巻市



宮城県東部に位置する、県内第二の人口を擁する市。石巻市の主要な産業は、水産業と県下第二の集積を見せる商業である。また、造船業、紙パルプ業なども盛んである。東日本大震災で最大の死者数を出した。

調査団は、瓦礫の山や廃棄された自動車を視察した後、日和山公園から市全体の被害状況を視察した。



(左) 廃棄された自動車の山 →
(右) 日和山公園から見える瓦礫の山

①東北地方整備局 説明会

- 発表者： 池口正晃氏（国土交通省 東北地方整備局 企画調整官）
- タイトル： 「Actions taken after the Great East Japan Earthquake Towards Rehabilitation and Restoration」
- 内容： 東日本大震災の概要、道路・港・空港の瓦礫撤去作業、国道、高速道路の緊急復旧、道路・川・沿岸部の復興

↓池口企画調査官のプレゼンの様子(通訳:岡崎)



↓災害危機管理室での説明



↓岩崎泰彦 東北地方整備局 副局長 表敬訪問

